許國
奏議

邵端遺記

ル 3
474
5

京都
四条下
上田仙吉
西右衛

門儿留 3
474

西遊記巻之五

天の逆鉾

じうわ兄はちいさごひとつ多さうし一時冊子二柱の御神天の深榻のごとう勢のうえと称め下しうえ小海のごとくうみゆるものあり二柱の御神天の坐ゑこれはさぐりうえ

こ玉ふうえ久しい幼ゆえうに徐ゆくうえ毛雰海上をなづくる由

東ふーて至陣ゆ遂しゑ又ひとつ今ゑ彩り生内くゑ此

山の絶頂ゑたちてゑる此天の逆鉾とゑ人徴ゑ神代の回想ふー

て奇絶の形又形ゑ尖ゆ此ゑ尖ゆ海ゑ海ゑ

ゑゑひくゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ此ゑ

ふ〻て終に雲を風動き雲霧隆くの神雲ふ異怪異流
新奇く登るその不時に行失する事拙無多の事由へ羅
列のくといへどもとく絶頂に到る者をくるに神久岑この
逆作の岑峠居くゆ〻しくとひ居つまハ廉児待遇多の時多
志紀志〻く岑うんとす法ふ山中奇怪多〻と分けハ石
連〻僕るどい凡庸の者るまバそ〻ひまく行失みど巳ハ恵
うるべ〻と心素〻く旅者へ集合の人の中ふく撰〻ふ旅
者のをきあくう年ゝるきこ雪性の罪みありくれこそ生山
〻同道すべ〻とひ〻ふバ外寺つまて只二人者用八日とりて
羅列無児〻ゑとて日向国ふ〻むく羅陽日三外ハ教

のくきといへどと言葉紙知〻わとりふりどの喰ふるまバかくる
山へも行用ゝやきらくるひきりこふけひハ指おぐんきの年ゝて
ひごろやうく終入きゝ者するくいのるたうし〻ぶ〻時年も
かくま〻〻どたもひま〻〻り相滅陸二ゝ行行へて雲〻ゑ山ゝ入
教十丁のほうく嘉作の家居のおゝ名く二神垂絵の地ゑき
バ家居今ゝいくり結ゝ名く岑山を国ゝその大社ゑり伏ゑて
家考ゝ及ひぬまバ像の山下坊といく坊ゝ者をこれ坊ゝて先
達の案内者と名のちゝやくひ的夜のちより登山す雑樹
まひ〻げりゝうげざ石傳〻ざるかどの山行〻と与くる道すい
と見へくるゝ呉案内者のあくに信ひ知このぼうふ登るその

乃奇樹異卉石もしゝ囲りをめぐらしたるもの多しこれを
南方候氣の山なれば生ずるの品物も多きなるべし全体本
小国の山なれば拾ひ取り種物多しかくはたゝき取れば十丁の
内りつくせどそれより上は樹木一本もなし只草のみ
生ひたり生ずるところ四方縦横とうつまき蘿蔔日の
三別一望の中にいりくみ嶺山は清濤のごとく大海は青天
鏡きらるごとし中に橋しる山突然として秀でて孤石と
おきたるごとし絶頂より白き煙り四時ふたのごとくして香炉の
ごとし景色無双筆つくしがたし件の草ごとに此山に
のぼる事又十丁ばかりもなく只栗ばかり

そうもあるふるつてやりまきりく急流なり却てあるようなる
陰くのぼるふもとびは天地の事しきやく数ど不ばかりの方
取そ此ばかりあるひは風ところ如小巷来る又眺望のいとなる
しをれより二十丁ものぼりくるの背嶺しらんとしるとこ
御仲めぐりとりつけとの所ところ〻いるとこ
相陪会して細の道ろとはゆくごとく只平ふゆくしいへくもた
ひるの徒ものとハるの背こへとハいくとハいくより只此とこべハ栗おとこく多焼
いしたの方へるこまこの生ずしところ狭き此しるべしさてた
の方ハ百個の岩こそ屋ハをふく眼及ひ右の岩ハ方さ三四丁
わるひハ又いしふて岩しこもて極楽蛾へあるはるの背

かくのごとく猿ハ呉何しなく震動して地軸忽ちくだけおちて
此山激塵に成るやう小児かまへ瞬き忽もいちまいの気ひきし来
てあるひハ墨のごとくなる雲うづまき来り同行ふたりのさへ一つ
雨かかるく事もなりあるひハ其将左右に異形の雲煙あつて
又きた鬼神のごとく佛神のごとくきた事もありあるひハ足下より如
くちのぼりたて積にたるひきで織りなせるがごとくなる事を
あり又天地ともに金色になる事もあり其邪奇怪ふしぎなる
つくりふもおろかなり静にて土幾数つる小兵路岩一個の猛虎
にようて又旋気もあつまり来り炎の上にて雨そそぐ紀雲霧霧ふ
ぐ田へて水火お激して震動雷電し又も火薫蒸にようて吹

の形ミゆるなり又硫黄焔硝の氣あらう人そこに充満して絶る事
様々の匂ひをいだせる事なり又あるく一陣の風吹き来る事
ありいかに此紀ハ先達教へてくゐらうり邪に倒れさし匍
匐するさまハ風のためにひとしくて猛虎のうちに前ひ
落るなりおふしき風のために取られるものあるゆへに此山にてハ
絶失する人多しといふなり我も猶に此らせこと恐れておそろしの
風ふきを毒とうけずしにかり地にふれて風にとらぬさまなる雲
にせり忘ることふて又魚にも風も少し大なる事をあるうり須臾
れ變改定まる事なし此くあるに至りふしきもいへと雪意
のあるその大なることまで足銭ぎて立つそれあるさびもれと先達とおや

ばかり分抱しくいろくと取しあげが徑ハ三尺
ど後ろに回るへに親を変ぜ一つのいんともしごくやう
ぞ雖後一尺ひしふ先達い人ゆうくハ山も撥ぶまあ〻し
ゆくふ人引失しぬん事いふもすつ屋うに堂山もそを
うちとりトふをべしとへじ力及ばずをくるれう
ゆう〻命人拙夫ゆう後一十丁だりぬ下を八天事晴朗ふ
て風花をむち〻四方の嶺を初のごし上ぐ〻く休息しく
焼飯を食しうを徒わしハ弱をのもけしを帝の
ぐく〻しくけをとハいふしとかだりをとを絶しをつふ
やと三人おるふ猛ゆうれつ〻くやしかる事のわり

て嘆けふをる色うんうして元屬の人と回反せさてしあり
絶るよ今ゆうものがるく部すでも絶項をさワ先ずして見ば
下山せん事生涯のいこんあるべし絶とんぞして一人なりしも登り
うれをのとをふりひやぐ〻して先達よりれう絶項すでハ反徑
いかどもるを回ふるの貴紙ハ七八丁をれをさて急の渡り
と為十丁ばりをやわうんとのようをるとハ絶の道ゆり絶を反
やわうと回〻あ〻ぬをとハ絶の道ゆり絶を反
徑義ゆうを六 祝 ハ傷ふ〻して絶項ふ絶ゆうべし北をを絶ようをの
とちり居てゆれうがりあるとまちゆれようをまゆり下ハあ間ゆう
てハ一ぬようをえぬをとけをとハ人ちくくも絶ゆりとひをそ〻ぐ

ひろとそこそこで足とそこふのがりしふ伴の子の骨こそこ
きこどそこ池そこちこそ蒙じて物のごとく先達がおしへ仕せ
わくはうはづまはりて風をさけるを辛方若しそこの古城
八丁ばかりをきりぬけそこに先達のひしこくそれこそこ
垂こ望る和わりはところこのこまハそ他又常人ごくふしく奇
怪なし只いさ城限りよりやる往ふ住ひく絶頂こてこまり絶
頂ハ実ほとし樵の地面こ天の逆鉾あり是城ほんぶしとこさろ
うまこさ何ふかさとくん逆鉾のわりさ金伴ハ鹿金のごく
にこんたまとも風雨かさこうせるものるれハまく繕てもうこあき
らし長さ一丈餘ぐらうふこさ大なる作往ふてさうさ

ここち雲石実の端の形ハ南面こ鬼面のごこさこのこ面ハも
風雨こ洗まこまハ異自ありとハかんぐこ出中こ入ほこる先き
乃方ハ何程深こ入りるやちるぐらこ只絶頂こ計鉾一本のこ
ものそ形ハ筆字筆のここきこの一つもるこ神代の四和ありや
こ絶こ古こ人とも実ふこ百年こ百年結のここきこの
こ月人ぶこ下の辛形ありこ絶ぐこもるやとくこくく
月こうこもこくびこくこ世絶頂こ桃細するふこ高ほるる
ここ四方国のこ人限りこ人彼りこ生ム地ここ年今こ古こ
たこここもかくるこ和こ久敬るへこふわこぢこいそぐ下
ほこるふここの骨雖こふこ天地鑑眞こて怪こ天

蓋しるそぐーことく〳〵業を立すぐさまあゝびゝ〳〵山上の
えゝ〳〵ゑゝ人ゐる洞ちぎる山法あり蓋くるの背ゑ所とこゝ
ひさかりまゝふ遠のたゝ生遠るそのうすふ尺く大さ
豆のごゝ〳〵燒ーくていそぐゞゞどゝひるとハゆ小すぐり為て頭
史のゐゐ二人のゐゐまるゐゐぬゐゐるゐゐ〳〵事のゐゐゐ洞人ゐゐ釈
ゐしるゐ洞ゐゐ花の傷の場ゐゐくりぬえ木ゐ為ゐゐ山るゐ三ハ百
天十一のゐゐまゐゐもゐりふハ玉遠ゐて岩村ゐりゐゐゐ今
殷の雲山累虎場河の雲なゐゐゐぐもゐ〳〵ゐの背ゐりゐ下
ゐ番ゐぐ生雅のいゐんゐるゐぐゐゐんゐの紙ゐくも絶頂ゐ指
めたりぬ文花ゐりたゐゐまゐて西のゐゐ森の峯ゐ山ゐ

雲ゐる所ゐ東の峯ゐゐ東西ゐ二峯ゐのゐゐまハ少ゐりかゐゐてゐゐ
絶頂ゐ玉ゐゐまゐて只一筋ゐ雲ゐゐゐゐゐ山ゐ多くゐ
少ゐる所もあり又下ゐ所もあゐゐゐのあゐゐ山ゐ山のゐ多ゐ細ゐゐ
絶ゐハ千只少ゐりゐのぼゐゐ所ゐりゐ下ゐ所の雲ゐゐふ絶ゐゐゐ
ゐべー山のゐゐゐ事ーゐハゐゐゐ〳〵かゐ二峯ゐ東西ゐ対ー
峰ゐゐゐゐゐゐゐ言ゐゐゐ為ゐゐゐ二ゐ嶽ゐゐゐ〳〵ゐ書ゐゐゐ山ゐ
の山ゐ三ゐ中ゐ玉ゐ世ゐの人ゐゐゐ為ゐゐ雲ゐゐゐ山ゐ山ゐ玉ゐ
ゐまゐゐゐゐゐの小山ゐ三ゐて神書ゐゐゐゐゐゐ山ゐ三ゐゐゐゐゐ為
ゐの雲ゐゐゐハ山ゐ霧ゐ為山ゐゐ事ゐ輝ゐゐ乃ゐ径ゐゐ絶ゐ指ゐゐ山
山ゐゐゐゐゐのハ花のゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

只今世にて称する所の名なり神代乃霊鷲といひしハ身
至地に往つがる由へに真蹟残しおきたり二神垂跡の重き
の道猿人并に常盤の鳥ハ其所に一統あれども尚
と云けれバ弟子にあるしてけ出に墨も画の筆もなきハ東乃
先におゝりて雲霧に尊へねましても神仙にあらさる由へに其の
人のぼる事かなハずかの山の高く高さも広く大なる事無量なる
其林麓の色あり三十六里山の中に大なる池又六十もあり
中にも大頂の池紫の池なとハ色あり三里もありて湖のごと
くしとかへ此山にハ蛟蛇多く住て池の辺岩多く旅行者と
申人も池の辺に行事なし其しハ池をしと思ふ時に本まゐ

まで歩行となり人倫の絶てさびしければ大蛇多くすみ出て人をのみ
といふ又雅名といふ者のありて飛鳥のごとく蝶舞くして地に
引きおそろしき猛獣の獣あまたも人を害する事ハ常しとて
なく山にのぼりし時も初めに案内のものゝ此事御ひきこと
しるべきへしも驚きたるべきなどといひし事もなしつるハ猿王
しかるべしと思ひしかども折に出てあざりこさぬか法師の
毒蛇悪獣大蜘蛛大蟒蛇蟇等多くしたるハ南無由へかゝる
高山深谷なれども雲封ずる事なく峻しくあるゆへに
捨おかずに広くて人跡まれなる幽谷のところ多くさ由へに万物生じ
やさく冬も熟さずしてかゝるそのども多くしつるハかり如き

うと雖中　之山ハとハ云るく　廣き事　雲霧　こおとろぐし
どを四時雪　消　して　此ハ　仙事　なりうること　毒蛇　猛獸
る事　只　雪　獄　事　木の　樹　紅の　多きハ　五十　山　こ
勝　るところハ　あるし　とぞ　そえゆ　又　山中　温泉　の　湯　亦も　紅
十　和　あり　猛　黄　のいづる　なもあり　石　樹ハ　五の　皆　紅　色　の　名
底　より　けつ　らく　やさて　遠　き　猿　のごと　或ハ　月　出　のごと　く
事　その　あ　くま　ちり　紅　ひ　ゆ　ぐ　し　ち　ま　と　も
絶　滅　のところ　よ　て　仙　く　く　仙　ハ　生　き　神　靈　ふ　ー　ぎ　多　き
遠　み　ま　た　仙　主　粒　といへ　ども　山　神　のいりやふ　解　る　く　と　て　と　る　人
る　一　又　黒　そ　て　る　丈　の　玉　岩　を　と　り　こ　ぬ　き　こ　る　あ　り

事　絶　云　流　こ　ま　ば　こ　ま　れ　い　ろ　く　の　仙　事　ひ　つ　く　す　く　こ　ば　ば　山
中　と　一　月　い　二　月　も　わ　て　こ　ゆ　ぐ　こ　じ　面　白　こ　事　況　り　わ　ぐ　べ
こ　ば　ま　ど　も　中　く　仙　骨　紙　ま　ご　ま　ハ　叫　ひ　ぐ　こ　事　一　こ　ま　ぐ　て　天　下
の　こ　る　山　ハ　後　の　小　角　繹　の　素　潔　ま　ど　の　角　山　多　こ　こ　式　素　し　ぬ　ま　ま
の　こ　仏　寺　の　い　ま　ぐ　る　仙　分　こ　る　不　し　て　只　角　山　伊　綴　伊　角
の　二　神　こ　ま　い　べ　こ　滅　う　仙　業　こ　山　る　う

国　綾　橋

中　綾　の　橋　ハ　ま　こ　く　屋　風　の　作　り　中　こ　ま　ノ　お　岩　こ　う　切　石　紙
要　こ　て　橋　柱　る　し　ふ　う　け　流　る　石　橋　る　う　他　国　の　石　橋　と　い　ま　こ
こ　ま　ば　石　こ　て　こ　う　け　こ　こ　ま　の　る　こ　長　橋　の　石　橋　ハ　ま　こ　え　と　切　て

板をこのごとく重て両方より合せたるなり 其橋ハ多く石
にて水を通ずるなり 其外図の石橋といふ廣縄に急ぐ所の橋ハ
大なる此風なり 下より船の通るまゝハ船のまへ事もあるとなり
いふ往来ある地などのするとも動く事ありしこの城
に大河ハ有る所多くあれども張の川ハ大なる京都の堀川程の
大きさなり 万代不壊の橋なりとて唐人常に称まると
いふ陸地を柔らかなる石にてきざんで出入なや京都までにてとも
でも橋を作るハ破壊の恐なくしてよろしきとのこと

家猪

唐王廣の城下に繁華なる事 大坂より勝

まで飼ふ也 京町にも多し 猪牛の小さき物ぞかし
肥ふくれて色黒く毛なし 町々にて有る物なり 京都にて小犬
の如く町々の軒下に多し 他国にても珍しからぬ物
なり 猪とは少し違ふなり 是ハ彼地にて食物の第一とする
也 日本にては多く長崎に唐人のために多く飼置て食料
とするなり 琉球にも多し 又長崎にも少しあり やさしと
いふ獣あり 其形羊に似て色黒く毛長く 羅列
呪猪とも云あり 羅列の肉にハヤギの牧ありて多く育てる
といふ 何の肉にもその肉や 気をよく折て 来る
ておもしろきものにて 町々の軒下に 猪を多く人に売る

うごく玉く古地く少し金獄小もかうわり

池獄

池あるの山雲他が嶽ハ西王の石山より山の宮と名付て後小
の方ぐり繞のごとく陸ハ連なりて三里只一路ハ発て
玉ひ平なる山之麓ハ広ぐの大海へ流るふと大洋の中小て山
雲他ハ嶽と同道とまるとそ所も高より流る附ハ多く橋類と
ハ多の山山の蘇の多く橋ハ村ハ附て一名ハ十山里ハ天竺
一接の附城徒の中ハ名ハ多くの橋ハ在和
ありひ多く橋より山ハ金ハ通橋ハ名ハ多くして傑ハ細和
の山ありて登ハ高ハ絶境ハ奥ハ雲ハ有ハ絶ハ不池ハ

民ハ多くまるふ人ハ四海ハ皆ハ一と称ハ皆ハ美ハ
和ハ幅三百ぐらの川ハ多くまるハ天竺の一小世界ハ実ハ池と
の他境ハ多くハ人ハ行ハ多くハ小ハ多くハ蒙昔の仏法ハ多く橋
徒の者ハ西ハ乗法ハ多くハ文武ハ武ハ動の
法ハ他ハ多くハ法ハ多くハ天竺の孔ハ
多く橋ハ法ハ多くハ城徒ハ山ハ橋ハ多くハ
ありハ橋ハ多くハ城ハ山ハ金ハ多くハ
せるハ多く今の法ハ多くハ古代ハ前ハ京都ハ多くハ家の
道ハ沙門ハ他ハ多くハ多くハ家の法ハ道ハ多くハ
かくハ多くの　天竺ハ多くハ名ハ多くハ一系統と称ハ

この流を出へ入まていろく和漢一国の人命の終のこゝ
ハ是ことの人命も地獄と達せしふるこゝてゝ
絶句一首作りて曰ふ流をしらべ出てとゝるす
ゝとゝ地獄を離して地獄めぐりすもの地獄ぐわりき
ゝ〜ゝん地獄あり蓮花地ぐわり鉄や地獄あり鉄汁や
地獄あり猛火ぐわり生ぶくをゝゝの地獄あり
く多くハ号地湯の地ゝり生ぶくをゝゝ雲のごとくゝ
して流ゝり或ハ石ぐわりて燃ゝ生ぶくをゝ流しゝ
こと書はくすべきうゝず東国ゝてハ紅中五山沸騰の地獄
地ぐわりゝ人仏教ゝゝゝやゝゝて教へゝハゝ

ゝゝ知ゝ死すべゝ人ゝゝゝゝすゝ十和尚めぐりて
地獄ゝゝゝゝゝゝ地獄ハ中の地ゝゝゝ地獄と
いゝゝあり八寒ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
佛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

東海氏の墓

[illegible]士の山上に東海氏の墓あり廣大[illegible]
[illegible]一とりへ一[illegible]ろいに作日本の墓の作りもこは大し
ちがひ山の[illegible]勝と異ちがひ[illegible]石塔のごとく[illegible]あげ中[illegible]
ホーて石の扉あり石の門[illegible]ゝ石の[illegible]ろ[illegible]
と彫りて[illegible]の[illegible]紀[illegible]紀[illegible]石の[illegible]
[illegible]彫[illegible]ひ久[illegible]と彫[illegible]
[illegible]紀[illegible]海へ[illegible]
[illegible]ろ時の費[illegible]十年[illegible]
[illegible]紀[illegible]ず二三十年[illegible]紀ハ常[illegible]

[illegible]ろ[illegible]て[illegible]の[illegible]
の[illegible]る事紀東海の墓[illegible]明の礼[illegible]
[illegible]て日本[illegible]
東海[illegible]十[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]明樂の[illegible]紀[illegible]氏の[illegible]
[illegible]東海氏の墓[illegible]
[illegible]明故伯毓禎魏公六府君故考使長魏公九府君墓道[illegible]
[illegible]行端東南の[illegible]字と大字に[illegible]又[illegible]下[illegible]椿林
鍾秀の四字大字と横[illegible]勝[illegible]

よりゝべてゝ大ゐの美の墓所とつくるも及ぶすべあるべきか
彦人の墓ハ大ゐゝ大すゝてゝ
清正公
肥後の国熊もとかの城清正入熊城祭りて清正公の社
とゝふ熊本ふてゝゝろの大社ふて一国の崇敬ゝゝゝ
社のあるゝゝより社頭の赤ゝまで神ゝびそゝまハ年ゝるゝ
つゝ来きる事ゝゝをとゝる織ゝ天正のむゝゝ天下大ふ乱き
英雄豪傑きゝゝゝ起り武勇の大将ゝゝゝゝゝゝゝ中に
今の世ゝいるまで神霊とあゝめ織もあきゝ人の参りゝゝ
ゝむハ只ゝ清正一人ゝり織ゝ清正の人ゝゝゝ美ゝゝゝて

いつくりと行りて雪ふりて鳴るに蒸の心あり三月の雪
の中にてハ計ますぐまてぞ見へ一ツ一人心の美に感ずハ和
漢とも同じ事ふて屋ちゆ少しも人美き中に関白のゑ今林
ゑ多り 信玉ゑ多ふ心 あ海り 日本の地まで関東堂
ゑ人ものと建て半鐘の人心義信するあるゑ清ぶも
三年中信ハ吳白まじもこ雪報義姫の事ゑ関白の風あ
きバく心の地すり不ありくく浦世まてもまれと思ふるふや

山汐

あ紙年間羅唐の採作山大ゑ燒て採山上ゑ大ゑ濃と
出て田地氣大に塩ばり不の人ゑ山汐とゑ抑山塩

ゑの人ハ海中ふ有りて蒙の色ぐり七月山の色ぐく一半に鹽て
比叡山ニツくゑも和ゑくゑ山ゑ
田地ありて寅鏡の不ゑ三月ゑの燒ゑゑ一年ハ常代の
信玉ゑて今ゑ一紀年ハゑ奏ふゑゑ燒海ゑ清て人
ゑも見ひ海ゑ仙地して信ゑ人ゑ和ゑ或日又山の半震動し
ておびてしゑハや又燒ゑ人ゑ行ゑ山の半ゑ雪ゑ
ゑ山地ゑ迷ゑ義ゑ信ゑ行ゑ半ゑ又行ゑ半ゑ大ゑ
山と碎ゑ石ゑ花ゑ一ゑ木と拔ゑ半ゑ有ゑ半ゑ水先ゑ
海ゑ和ゑ人ゑ田地の半ゑ海ゑ見一紀のゑふ大海へ寅ゑ半ゑ
さばゑの塩地ゑ半ゑ山の半ゑ海と沈ゑ有ゑ半ゑ大

水気さえなく海あるゆゑにこれひの多ゐる事きこえん
んりのなし人ともふるいとゐもなくもとより空うち者も
ゆゑとやゐれも三地ゐ海うゐ付きたとえうしふをあず
を大ゐる岩と名ゐ生傷の四地の中或ハふうさ黒ハ上ゐ赤を
大と称ず三丈あるひハ丈六丈みも及へる石ゐ道沸きうう
うゐ石のゆゑ名きバ人力ゐ初手事もあるこ沸田畑ゐ多もゐ
こゐらをゐ多ゐうこを多ゐう沸新ゐ上とうるふもきこにかゐうゐ大石
乃水のゐ多ゐ多ゐを下きゐる事こを付の多ゐ増ゐひやゐまさ
ゐ今も掘ゐのゐ四人のうふ多とうけバ沸乃ゐうけ
ゐうゐ呼ゐを村丈ゐ山沸が多ゐとうへゐを

ゐゐこのゐ沸ゐうゐ乃ゐうゐうゐ
すべてゐる山大ゐけの沸ハ多くハ大ゐ沸を
ゐゐ事ゐるものゐ下ゐ四癸卯伝列沸乃
ゐうけ大燒乃ゐけの沸多もゐひゐゐうゐ
事ゐる人のゐうゐ沸ゐうゐ事多事を
人ゐ数ゐゐる世ゐ
占沸ゐ来沸
中西九列ゐゐ地ゐ門の西と豊乃西ゐ青ゐが関
ゐ因者ゐうゐむりして繋ゐ一ゐの海とへゐそゐ小金へ前
遠ゐて三ゐゐりけ不ゐ西の山遊ゐ道ハ沸乃幅狭くゐ

[illegible]ふーして後は大河のごとし
[illegible]の流れハ海の流れ合て
[illegible]を流れ来る赤子の笑ふ[illegible]
[illegible]て僕紅一艘をもゆりて逆面すべし[illegible]づふけ
[illegible]と稼さん事もなうして後[illegible]の面をまで傾[illegible]して流
[illegible]こすてやうさと人に同じて僕紅とうの流れて流るる
[illegible]で入るまぬ時う程を[illegible]べしとていさ猶
紅[illegible]うち僕と武人紅人二人紅合せ人をのりて流るぬ物
の[illegible]ハさもうるしう中流[illegible]ハ後に大河のごとく逆巻
大海[illegible]流れ[illegible]

[illegible]て遠く筋遠く[illegible]を流るぬを多勢川のごとくおて
海のやうにたわ[illegible]ハ本のくのごとくゆるさて[illegible]
べくもわ[illegible]び僕ハとく[illegible]邪しるを[illegible]の見さ[illegible]
いと[illegible]して後ハ[illegible]うしがあるうに後くゆきて[illegible]
地も常[illegible]ハ面白[illegible]も流れくさび幸うして流り
[illegible]の流るる幸をまきもてきさとのうう又流う
の中流に岩山の長きう一ツ水の上後に出そうに長く流れ
[illegible]紅のごとく流れかやいうるを[illegible]名[illegible]一中に同入て大[illegible]
[illegible]名朝船出征伐の時肥あの名[illegible]やまで出陣ありしふ[illegible]
[illegible]て流れ[illegible]

すでに碎けて海中に流れとせしかばいかもりきそうけ私記
来り供け玉をもり玉を離し海より付きひしとぞこの村の私記とる
ひとりひしーが大くとるるに石潮法るまこバ卯刻ふけ潮ふこり
切うくして夫より陸地とる浜乗潮とハ名付しーるり左
閑の池ゑびゐ池をこうしまこ玉ちんキの強きさしるべし又山
下に巻流れあり山水ハ佐くに朱教法文中武蔵仕合の池より
こまこ幸ーを世の人に伝るこまこ幸たまこバ志ろこと

景清ら母

景清ら母の墓あり世の人皆しる事なり然るにいるる所
景清ら母ハ球磨の人吉の城下より又西ハ径東の切幅村

下に山水ハ山村ゑるこまこ育人ばえむ所ゑる者ハ他ゑるもり
来り幸なるべをしーて入る村ハ中ちまちまる大る崇
やちりく那儀に方へまるり世こいくくく恵七絵京ゑこ
儀に育人に御ゆーゆくゆくや

卓子

をこまころ上方ゑも屋めるこまこ玉ゑ人卓子食と
いくく料るとーて一ツ器に飯食ゑ人ばらの
鬱紙つゆて玉を玉ゑく食ゑる幸ゑり強に陽ゑるくゆ
奈ゑ玉を弘仕の頭ハーこまこ幸もるく用紙ゑて活も歳酒のむつ

くしき幸ゐ名をもひろめ行せよのミ今くゝ風流の賞
含て面白幸ゐ物ハ美味家ゐ物ハ美味家ゐ物ハ美味
樽を取ゝ卓子料理とすることゐ上ゐ物ハ
そゝぶ少ひて至て易き朋友中ゐでハ行ひがたきゐ
ふ所ゐ云ゐ世ゐ都のことゐ物ハ
まゐ所人日本の者ゐ物ハ膳椀ゐ物ハ
うへてかのまゐ著ゐ物ハ一ツもとゝゐ物ハ
ゐ物ハ日本ハ礼儀正しき国ゐ物ハ
日本饗食の幸ハかゝゐのごとく礼儀ゐ物ハ
膳椀とゐ物ハ使ゐ物ハ

といへゐ物ハ紙ゐ物ハ
幸ゐ物ハ礼儀正しき中ゐ物ハ
も和ゐ物ハ
幸ゐ物ハ人の戯れするも
限ゐ物ハ日本の正幸ハ
内ゐ物ハ
の幸ハも又金紙と
分ゐ物ハ
所人笑ていやゐ物ハ
横著ゐ物ハ

そのふてもすべてうち怖ぢるつゝをくことを決してをきるこ
金絲にて漆ぬりおろしてうる器ものも棚づけふ対しうち怖ハ堅
さうりそふのものもくぬりかけをこハこをあまと屋人など
ちうえハ考て詩心すへうさるゆうとうさ法華の友ふ高
ひしゝ四人屋人能ハ業ハ能巡見のとうさ阿蒙宿能
内ハうりうし挿深ゝ三角の新人一人も出るゆうく思す
又ハ千ちるどうふ古紙のものハいづくまゝしうち動しるゆふや
主人も見ふうちに作カビ多ハ下の微人へうこのどうち出て
紙を数年ふて屋鏡のるる鏡もうしふ屋人能そ能
人の新人大勢遍の左右に出て行列と見物しあるひハ三

うるて紙外の中をも押へうるひハ有るのぼり堀る鏡てう
撃こうこうひのゝこをいゆ面先人まに主花玉
抱うゝしゝハこうこうきびゝく怒わうひうる行承知せび
して能ふてハ軍隊帝国巡の付ぶも行きうるて三使
とひてうん相せりてるゝ
るゆさうて主れまハわうびとうこうこ屋ゆうの巡章に
左ハるうゆ上下和願ふして英雄うしうくも法度のうぶ
アうるうまハひゆうぐゝすべてのるゆふ屋古ハ文弱の風俗は
て下紙のものまハ法度の新聞うこうハ行きうきうこうハ
とゆうこうて能業能すぐハ法度ぶゝきとうくへゝ

殺人などふても来朝の時下分のものども道中筋にて尾
籠なる事申しするにても毛国のふるさとひもろへ

陸乳穴

備中国ゑ田領の山中に侍ようひち乳と称す洞あるあり
ゑ田ちとハ陸乳と入口のこと毛国あるの中に陸乳石入多く
あまたハ名所しるり松山城下ちりハ七八里ばかへそたりと穴
入りにくること大ホーて始くいまハ仏菊りて石壁ありそあ
ゑ壁ホーさわるあり三ちさあるをとぐと入まハ大ひ
ろきところふ那る此所ゑ一のはえまるく鳴聚ゑ
しきあと巣鶴のきの松明とそなくことをしへるこてあり

ゑ壁ゑ乳穴大なるもあるべし此所上ゑ陸乳石
壁ゑ乳穴又ハ堂の壁奥の柳そどゑ所ある岩自然ゑ
ゑてゑ形仏ゑ鳴く鳴奥の石ゑ入ゑ仏くふ又仏菊ふ
仏壁ありゑ名望入て壁ゑ変ゑ鳴ありゑ中くく鶏鳴
てくぐゑ入ゑ行のふあるゑりゑあるゑ中くふーてはけ
まハ又壁ゑ行ゑ壁ゑ行ゑ此所ゑ二階ゑりて、ゑゑゑ所ゑ又仏
ゑあゑり進ゑ鳴ハ音少ゆ松明とうゑてゑんくゑ進三
ゆくふ仏岸のゑゑ壁岸ありゑ仏中くふーて
はけひまハ流の流まの川ありて水ゑ筋仏ひ千牛
ゑゑ川仏流ア鳴へて陸ゑゆけハ又ゆゑ南りて石

ゆえあり生涯よりて又小穴ありそれとも〻ぐと指さいと大成
さ所ありり山ふ也初の二ヶ所ハ小ハ狹くして行ものなし
奥ハ高くとうとうんゆえ又奥ハ大の穴ありて是ハ
く〻ハ山のうしろにて入口なるもの奥ハいかるるもおるなるべい
ものと知る人なし一条の方ハ竜光寺山ハ山ひくくして
此郷国知る老人と郷者としてこの穴に入りしふ郷者
の老人も知ることなしとい穴の事ハ一切教人とも商せ
しうもの二階目の懸崖とかりし事いかく狹くも侍
ぎりしと長竜ぬ者の辭して膳雪わりこてとく人ハ
もある人ハ奥ハ入いてすくして三階目の崖ハ奥までハ入て

小径を奥と探ぐんしと所ろ〻の老人たちおそれて松
明の用ゆるれど万一穴の中ハ尽なバ新人ハ入ること
事叶ぬ〻ぐ〻ぐ行ての奥ハいかるるものの住居ハ
ぬ紀ぶるまバ速こいでなくして先ハ立て逃出しこと
力ぬく出て敬ものと記し作り画も長しして人ハ
又余ハ此の洞ハ無ハ奥ハ此ハいかぶりしぶ
ぶ〻奥洞穴之又奥ハ玉那との山中ハも天ハ
ぬく幸ハの洞穴ありて数十丈奥ハ
ハ馬ありとの人ハ先年ハ洞中の景とこ
ものとハ玉ハの山中ハも清乳石多くある穴ありと

つて者ありて安芸の人ある伊豆国ふうの伊藤氏の門にあるなり
を究るまでも今にてハ始めをなるゆえ
度ごとにてハ湯殿とのゝ事ゝ
里とうへくろう湯殿の人を泊るの湯と称りそりあるく
又地とゝ出るゆと載うりう石屋ゝとたゝくゝ古ゝ堂小
しても日ゝ石ゝ数日ゝ湯と称くゝ完ゝ中に数
日歌とへてくゝいるこゝとゝまゝ代のうりう湯ゝ人ゝ
の辞ありくゝ湯うとゝまゝるも新ゝの人うり世
の気らしいくゝ湯場うり他るゝ完中ゝゝ魑魅魍魎か
大蛇毒むしのもも生ゝるものハ他ゝゝゆくゝふやゝなるゝ見湯ゝ

完中ふゝろうゝゝゝのくゝ湯ゝるゝゆハゝへずゝゝゝ湯ゝの完
ゝくゝ入ゝうハゝ細ゝゝうゝるゝべゝ　吉田善蔵

書林
大阪書籍商組合
東京書籍出版営業者
一冊
一冊
一冊
寅文十年午三月
東京市神田区
大阪市東区

西遊記巻之五終

一西遊記 後編 全部五冊
一東遊記 前編 全部五冊
一同 後編 全部五冊

寛政七年卯三月

書林 京都寺町通松原下ル町 勝村治右衛門
大阪心齋橋通安土町 吉田善藏